

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 自然生命科学研究支援センター

	組織目標	達成状況(成果)
教 育	各部門 利用者研修会(2~6回) 教育訓練講習会(1~8回)法令によるものを含む 英語による新規教育訓練(1回) 理系学生のための教養講義(1回) 高校生を対象とした実験体験コース(1回)	全部門合計 利用者研修会 37回 教育訓練講習会 15回 英語による新規教育訓練 4回 理系学生のための教養講義 23回 高校生を対象とした実験体験コース 5回
		達成度: 4
研 究	各部門 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 外部研究資金獲得のための応募(1件以上/各部門) 学内外の共同研究の構築	全部門合計 研究成果論文の公表 17篇 学会発表 31回 外部研究資金獲得のための応募 24件 内外の共同研究の構築 21件
		達成度: 4
セ ン タ ー 業 務	各部門 各部門の日常業務を完全に実施する (動物実験支援、マウス胚凍結、共通機器の利用促進、受託分析、放射線安全管理、作業環境測定の実施、施設の維持管理、など) 各部門の広報誌や利用の手引きを発行する	動物資源部門:マウス・ラット供給実績は延べ288万匹(対前年比1.5倍) マウス胚凍結業務は延べ15件、津島北施設の立ち上げ整備を行った。 ゲノム・プロテオーム部門:組換えDNA実験の審査承認WEBシステムを構築、作業環境測定業務の遂行、 光・放射線情報解析部門:作業環境測定業務の遂行と全学支援の実施、 分析計測・極低温部門:元素分析受託、学内133回(556検体)、学外9回(24検体)を実施した。計17回の共同利用機器の説明会をビデオ化し、ライブラリーを構築した。 各部門とも、広報誌やニュースを発行し、また HPに利用情報を掲載する試みを開始した。HPの更新は各部門が数回以上行なった。 支援センターコロキウムの開催:平成21年12月14日、通常の研究報告のほか、共同利用施設としての実績がある医学部共同実験室の実務責任者からノウハウの解説を受けた。
	センター全体 支援センターコロキウムの実施(1回/年) センターのHPの充実をする。	達成度: 3
社 会 貢 献	分析計測・極低温部門 学外受託分析サービス(元素分析外)を行う。	分析計測・極低温部門 学外受託分析サービス(元素分析外)を行う。学外から9回(24検体)の受託分析を受けた。また、オープンキャンパスやサロンの開催に際して元素分析を紹介した。
	ゲノム・プロテオーム解析部門 高校生を対象とした、組み換えDNA実験指導を実施する。	ゲノム・プロテオーム解析部門 高校生を対象とした、組み換えDNA実験指導を実施する。 平成21年10月27日、高校生40名に対して組換えDNA実習を指導。 平成22年3月6日、鳥取大学において、RNA解析技術の講習会を鳥取大学生命機能研究支援センターと共同で開催した。
		達成度: 3

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

教育および研究活動に関しては、本センターの各部門は十分な実績を挙げたと評価できる。ただし、学内外の共同研究構築という目標については、これまでの実績は主に受動的な共同研究の受け皿になっている側面があり、今後各教員が共同研究の構築に、より積極的に活動しても良いと思われる。各部門における業務活動は目に見えない地道な努力であるが、本センターの根幹であるため、目標設定と達成のための努力が不可欠である。改善すべき点としては、構成員各自(特に助教クラス)の業務活動が見えにくいことであり、個人評価と連動した組織評価体制が必要である。なお、人的資源の不足も含めて、若干改善の余地があると思われる。

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)